

## (2) 取組における工夫点

- ・年度当初や民生委員の委嘱替えを行う12月には、埼玉県民生委員・児童委員協議会、さいたま市民生委員・児童委員協議会の総会に出席し、「お達者訪問大作戦」の事業説明及び継続依頼を民生委員の代表に対して行い、新たに委嘱された民生委員にも事業の重要性を理解してもらうようにしている。民生委員にとっては負担が増える事業なので、スムーズな事業協力を得られるよう、1度説明したら終わりではなく、毎年丁寧に説明している。

## (3) 今後の課題・展望

- ・訪問件数は、十分であると考えている。今後は、訪問の中身の充実が課題であると考えている。具体的には、チラシの充実、訪問者への説明の充実を図っていきたい。

## 4. 取組の状況

配布している啓発品	配布しているチラシ
 <p>出典) 埼玉県提供資料</p>	

県人口 (平成27年1月1日)	交通事故死者数		
	平成24年	平成25年	平成26年
7,239,813人	200人	180人	173人
	うち高齢者数 96人	うち高齢者数 78人	うち高齢者数 78人

【本件問い合わせ先】

埼玉県  
県民生活部 防犯・交通安全課  
048-830-2960

## 【事例 14】防犯・交通安全啓発高齢者訪問事業（長崎県五島市）

老人クラブ等に属さない独居の高齢者宅を、小学生を含めたグループで訪問し、交通安全の啓発活動を実施

### 1. 取組内容

#### （1）取組の背景と目的

- ・市では、高齢者の交通死亡事故が発生し、高齢者の交通安全啓発が急務となっていた。そこで、歩行中に事故被害者となるリスクの軽減や、自動車運転中に事故加害者となるリスクの軽減等を目的に、平成 25 年度より、特に老人クラブに属さない独居老人を対象に、交通安全に対する意識啓発を行うこととなった。
- ・その際、高齢者世代は孫世代との交流を喜ぶため、小学生と一緒に訪問することとした。小学生に対しても、交通安全意識を高めたり、お年寄りの行動特性を勉強する機会を提供することを意図している。
- ・なお、訪問先は、小学校の通学路上にある高齢者宅である。これは、小学生と高齢者の繋がりを作り、副次的効果として、子どもが犯罪に巻き込まれそうになった場合、これら的高齢者宅がヘルプ機能を果たしてくれることも期待しているためである。

#### （2）実施内容

- ・民生委員等と相談し、老人クラブ等に属さない独居の高齢者宅を選定し、小学生を含めたグループで訪問し、啓発グッズの配布等を行っている。
- ・1 グループの構成は、小学生 3～6 名、市職員 1 名、警察署・交通指導員会・交通安全協会・防犯協会から 1～2 名、交通安全母の会・PTA・民生委員から 1 名程度の計 7～8 名である。
- ・啓発グッズは、市で作成する交通安全啓発＋振り込み詐欺防止用啓発チラシ、市で購入するポケットティッシュ、夜光反射材である。
- ・訪問宅では、小学生が 5～10 分をかけてチラシの説明やグッズの配布を行っている。

#### （3）連携先機関

・本事業は、市、民生委員、交通安全協会、交通安全母の会、交通指導員会、防犯協会、警察署、小学校の協力により実施している。主な協力機関の役割分担は次のとおり。

連携先機関名	役割分担
民生委員	市の福祉部門と相談の上、通学路上の独居老人宅を選定。訪問グループに帯同。
交通安全協会	訪問グループに帯同。
交通安全母の会	学校との連絡調整。訪問グループに帯同。
交通指導員会	訪問グループに帯同。
防犯協会	訪問グループに帯同。

警察署	出発式における講話・指導及び、ルートの安全確保。訪問グループに帯同。
小学校（教諭）	参加児童の選出及び訪問ルートの選定。保護者との調整。参加児童への指導。訪問グループに帯同。
小学生	交通少年団に属する5年生が、高齢者に対する説明を担当。

#### （４）事業体制

当該事業予算	38千円（啓発用品代）
本事業担当職員数	2人

※ 五島警察署や五島市交通安全母の会等からも啓発用品の提供を受けている。

## 2. 取組の成果・効果

### （１）平成 25 年度実績

- ・ 緑丘小学校の小学生 23 人（交通少年団に属する 5 年生）を含む、関係者 37 人が 5 グループに分かれて、18 軒の高齢者宅を訪問した。

### （２）成果

- ・ 交通安全に対する意識が高まっている。高齢者が関係する交通事故件数は減少傾向にあり、市内の交通事故件数の総数も平成 26 年には減少に転じている。

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
交通事故件数	69 件	84 件	72 件
うち、高齢者が関係した交通事故件数	38 件	36 件	28 件

- ・ 訪問を受けた高齢者の中には、涙を流して喜ぶ方がいる。
- ・ 帯同した警察署や防犯協会の方からは、「小学生が加わると、高齢者の反応が良い」という言葉を頂いている。
- ・ 特に、高齢者交通安全教室等へ積極的に参加されない独居高齢者をターゲットとした啓発なので、訪問による啓発は効果が高いと考えられる。

## 3. 取組における課題・留意点と工夫点

### （１）課題・留意点

- ・ 小学生の安全を考慮すると、通学路上から選定しなければならないため、規模拡大が難しい。
- ・ また、小学校からの協力が必要なため、下校時間帯に合わせて実施しなければならない。
- ・ したがって、訪問できる高齢者宅は限られてくる。しかし、当日に都合の悪い独居高齢者以外は、全員が訪問を受け入れてくれた。

### （２）取組における工夫点

- ・ 出発式の後、各グループで話し合いの場を設け、現場での進行や話すべき内容を相談している。
- ・ 説明は、小学生が行うことにしている。そのため、大人が説明するよりも訪問先の高齢者が話をよく聞いてくれることとなった。

### (3) 今後の課題・展望

- ・ 評判が高いため、規模を拡大する予定である。
- ・ 平成 26 年度は実施しなかったが、27 年度は福江小学校の交通少年団（5年生）での実施を考えている。交通少年団が組織されているのは、市内では、緑丘小学校と福江小学校の2校であるが、両校同時に実施するのは難しいため、いずれかの学校で実施し、参加者数の増加を期待している。

## 4. 取組の状況

【出発式の様子】



【訪問宅での様子】



出典) 長崎県五島市提供資料

市町村人口 (平成 26 年 1 月 1 日)	交通事故死者数		
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
40,395 人	3 人	1 人	1 人
	うち高齢者数 3 人	うち高齢者数 1 人	うち高齢者数 1 人

### 【本件問い合わせ先】

長崎県五島市  
総務課  
0959-72-6110

<b>事業分類</b>	4.運転免許返納支援
-------------	------------

## 【事例 15】高齢者運転免許証自主返納支援事業（山形県村山市）

市営バス乗車券やタクシー利用券等（30,000 円分）及び住民基本台帳カードを無料交付することで、免許の自主返納を促進

### 1. 取組内容

#### （1）取組の背景と目的

＜背景＞

- ・全国的にも、高齢者が関わる交通事故が増加しており、歩行中の事故のみではなく、高齢者が自動車を運転中の事故も多い。
- ・そこで何らかの対策を講じる必要があると検討し、高齢者の運転免許証の自主返納を促進することで、高齢者の交通事故の減少につながるの考えに至った。高齢者の交通安全対策の目玉政策として、事業開始当時の市長から村山市独自の対策を実施するようとの後押しもあった。そのため、1 人当たり 3 万円分のタクシー券等を配布する予算を確保できた。
- ・本事業の目的は、直接的には高齢者のドライバーを減らすことで、高齢者の交通事故を削減することであるが、自動車運転免許証の自主返納まで至らないとしても、交通安全が話題にあがり、市民が交通安全について考えるきっかけになればよいと考えている。
- ・高齢者の中には、なかなか運転免許証の返納に踏み出せない人もいる。そうした時に、この事業が、その一歩を後押しするものになればよいと思っている。同事業があることで、家族からも高齢者に自主返納を勧めやすくなる。

#### （2）実施内容

- ・運転免許証を自主的に返納した市内在住で満 70 歳以上の人に、市営バス乗車券やタクシー利用券など 3 万円分（無期限）を交付している。また、住民基本台帳カードも無料交付する。ただし、いずれの交付も一度限り。
- ・市報で、本事業を紹介している。また警察署が免許返納の窓口となるが、そこにもチラシを配置し、本事業の周知をしてもらっている。自主返納者に対しては、市の窓口でタクシー券の配布等を行っているが、警察署で市の窓口への誘導を行っている。警察署は市の庁舎に隣接している。

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年 4 月 1 日以降に運転免許証の全てを自主返納した方</li> <li>・運転免許証の全てを自主返納した時点で、満 70 歳以上の村山市に住所を有する方</li> </ul>
支援内容	1.運転免許証を返納した後の交通手段の確保として、次のうちからいずれか一つ（注釈：30,000 円分）を対象者が選択し、交付します（注釈：一度限りです）。